

ことで、ちょっとしたイベントではなく突拍子もないことをした方がいいのではないかと思えます。例えば徳良湖の周りで花笠踊りパレードをしてドローンで撮影するとか。どのようなまぢになってほしいかということでは、俳句や芭蕉など日本文化に興味を持つている外国の方も多いので、分かりやすい標識など、外国の方が来た時に困らないようなまぢであってほしいと思います。人を呼び込みたいから建物を建てるということではなく、ここにしかない空気感を大切に作るまぢであってほしいと思いますね。

景色がきれいな場所を探せば、尾花沢の魅力が増すと思います。**(大知里)** ドツキ市に関しては3年以上続けていたきたいと思っています。名前が変わろうが形式が変わろうが、徳良湖で何かしらやっているように。徳良湖の強みは、ロケーションが良く人を呼べるところなので、それを活かすことができればいいのではないかと思います。また、空き公共施設などを利用して、私たちのような作り手が集まる場所を作ったら、それが観光地の一つになるのではないかと思っています。

今後に向けての抱負

(玉忠) それでは最後になりました。今後のドツキ市に向けての抱負をお聞かせください。**(横澤)** 生産者や作り手、お客さんの出合いの場、ふれあいの場となり、楽しんでいただけてお互いにまた来てねと言ひ合えるようなあったかいマルシェを目指していきます。**(折原)** 続けていくことが大事なので、続けていけるように、

そしてドツキ市が皆さんに定着するように頑張ります。そして尾花沢が人であふれるようにしていきたいと思えます。**(久保田)** まず続けていくことが実行委員としては大変なことなので、それができること、出店者さんもお客さんも来て、皆さんが幸せな気持ちで帰っていただけるようなマルシェにしたいと思えます。**(落合)** 自分も含めて、勉強できる場、情報共有の場として築いていけたらいいと思います。**(鈴木)** 出店者側からすると冬も開催していただけるのはありがたいので、今後も出店させていだきたいと思えます。主催者の皆さんがしっかりしているので、この先も賑わいのあるマルシェになると確信しています。**(大知里)** 今回改めて主催者側の生の声を聞くことができて、今まで自分がかかにおんぶに抱っこで来たかが分かりました。出店者の役割として、その場を楽しく盛り上げ、来てくださった方々に満足していただけるように頑張ります。



12月14日に青少年自然研修センターで開催されたドツキ市。2回目の開催にも多くの方が訪れた。



第2回ドツキ市では、しめ縄やはげごづくりなどの体験にも多くの方が参加。



冬のキャンプの相談会も実施。冬の徳良湖の新しい楽しみ方を提案した。

とアップダウンがあつて苦労しました。**(鈴木)** 実行委員の皆さんがすごく頑張つていらっしゃると感じました。私が出店していた他のマルシェにボランティアで参加されて勉強したり、新聞やテレビ・ラジオといったメディアで広報活動を行うなど、成功させようという思いが伝わってきました。それを目にして、私も頑張ろうという気持ちになりました。そのおかげでお客様にもたくさん来ていただき、大成功に終わったかと思えます。**(大知里)** ガラス製品のワークショップを行いました。地元小学生が来てくれて、食事もトイレにも行けないほど大繁盛でした。お客さんからまた来てねという声を貰えたのは、前日に雨が降り開催するかどうか分からず、出店も抑えたものになってしまいました。弱気の出店になってしまったのが反省点です。

未来の徳良湖、尾花沢

(玉忠) 徳良湖は、令和3年に築堤100周年を迎えますが、この歴史の先にある未来に、徳良湖または尾花沢市がどうあつてほしいと思えますか。**(横澤)** 私が住んでいる集落の他にも公民館や公共施設の維持管理もままならなくなるほど人が少なくなっています。人を増やそうとしてもそれは難しい。ただ、今回徳良湖でドツキ市を開催して、あれだけ人が来てくれて盛り上がったということもある。徳良湖のみならず尾花沢の色々なところでこういうマルシェというか、人が集まるとわいわいできるようなイベントが定期的に開催できるようになればいいと思えます。徳良湖を拠点として地区や集落ごとに開催できたら面白くなると思えます。**(折原)** 私は旅行会社に勤めています。仕事で様々な観光地に行きますが、人が入っているところはトイレがきれいで照明が整備されているといった共通点がある。

あります。徳良湖は、手を加えたいところもあれば、加えすぎると自然の形態を壊してしまう部分もあります。ただ、せっかくキャンプ場や温泉などの観光資源があるので、トイレや照明を整備しつつ、さらに観光地としての魅力を磨いて、常に人で賑わう徳良湖になってほしいと思えます。**(久保田)** 市民憩いの場所としての徳良湖を尾花沢の人たちは100年かけて作ってきたので、次の100年もさらにいい形にできるはず。人口減少は日本全国共通の問題なので、尾花沢は少数精鋭でやっていけばいいと思います。徳良湖にしても尾花沢全体にしても、今後この土地をどうしていきたいかを、尾花沢市民一人ひとりがきちんと考えてまちづくりを進めてほしいと思えます。また、ドツキ市をきっかけにして、尾花沢の良さに気付いてくれる市外の人は絶対いるはずなので、そういう人たちがどんどん来てくれると嬉しく思えます。**(落合)** 100周年を迎えるという